

目次

凡例	6	28	宮本町会	35
撰社・末社・市場編	7	29	神台会	36
江戸神社	8	30	外神田同朋町会	37
小舟町八雲神社	9	31	外神田三丁目金沢会	38
魚河岸水神社	10	32	外神田三丁目末広町会	39
神田市場	11	33	外神田四丁目代会	40
日本橋魚河岸	11	34	外神田四丁目松富会	40
神田編	13	35	外神田五丁目栄町会	40
1 神保町一丁目町会	14	36	外神田五丁目元佐久町会	42
2 猿楽町町会	15	37	外神田六丁目町会	42
3 神田錦町二丁目町会	16	38	鍛冶町一丁目町会	43
4 錦町三丁目町会	16	39	鍛冶町二丁目町会	44
5 錦町三丁目第一町会	16	40	昭和町会	45
6 小川町一丁目南部町会	18	41	北乗物町町会	45
7 小川町二丁目南部町会	18	42	紺屋町(南)町会	46
8 小川町三丁目南部町会	18	43	紺屋町北部町会	46
9 小川町三丁目西町会	18	44	富山町町会	47
10 小川町北部一丁目町会	18	45	神田須田町二丁目町会	48
11 小川町北部二丁目町会	19	46	岩本町三丁目町会	49
12 小川町北三町会	19	47	岩本二松枝町会	50
13 内神田美土代町会	20	48	岩本町二丁目岩井会	51
14 司町一町会	21	49	岩本町二丁目大和町会	52
15 司町二丁目町会	22	50	岩本町二丁目東紺町会	53
16 内神田鎌倉町会	23	51	岩本町一丁目町会	54
17 旭町町会	24	52	東神田町会	55
18 多町一丁目町会	25	53	東神田豊島町会	56
19 多町二丁目町会	26	54	佐久間町一丁目町会	57
20 神田鍛冶三町会	27	55	佐久二平河町会	58
21 淡路町一丁目町会	28	56	佐久間町三丁目町会	59
22 淡路町二丁目町会	28	57	佐久間町四丁目町会	60
23 須田町一丁目南部町会	30	58	東神田三丁目町会	60
24 須田町中部町会	31	59	神田和泉町町会	61
25 須田町北部町会	32	60	松永町町会	62
26 外神田一丁目万世橋町会	33	61	練堀町町会	62
27 外神田旅籠町会	34	62	秋葉原町会(台東区)	62
		63	大手・丸の内町会	63

33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	日本橋編	65
東日本橋一丁目矢ノ倉町会	東日本橋二丁目町会	東日本橋三丁目町会	横山町町会	馬喰町二丁目町会 (旧馬喰町四丁目)	馬喰町一丁目三之部町会 (旧馬喰町三丁目)	馬喰町一丁目二之部町会 (旧馬喰町二丁目)	馬喰町一丁目一之部町会 (旧馬喰町一丁目)	人形町二丁目三之部町会	蛸殻町東部町会	蛸一共和会	蛸一町会自衛会	人形町一丁目町会	人形町三丁目東町会	富沢町町会	小舟町町会	小伝馬町三の部町会	小伝馬町二の部町会	小伝馬町一の部町会	大伝馬町三之部町会	大伝馬町二之部町会	大伝馬町一之部町会	本町四丁目西町会	本町四丁目東町会	本町三丁目西町会	本町三丁目東町会	本町二丁目自治協会	本町一丁目町会	室町四丁目町会	室町三丁目町会	室町二丁目町会	室町一丁目町会	本石町町会		
	87	86	85						80	79	79	78	77	77	76	75	74	74	73	73	72	71	71	71	71	70	70	68	68	68	67	66		
88				84	82	82	82	81																										

34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	神田祭今昔(天下祭と天王祭)	古写真発掘	参考文献一覧	写真及び資料提供・協力者一覧	あとがき	編集後記
東日本橋一丁目村松町会	久松町町会	浜町一丁目町会	浜町二丁目金座町会	浜町二丁目親合町会	浜町二丁目西部町会	浜二町会	浜町三丁目東部町会	浜三西部町会	中洲町会	97	104	110	110	111	112
88	89	90	91	91	91	94	95	96	96						

付録・「氏子崇敬域町割之圖」「お神輿台帳」
「江都三大祭年表」

凡例

- 一、各町会の地区割り及び掲載順は、神田神社氏子崇敬域掲載順に準じた。
- 二、町会名と町会の該当区域は、神田編では千代田区地域振興課がまとめた平成一二年四月現在の「千代田区内町会区域表」に準じ、町名に続く漢数字は、表示のない限り、「番」または「番地」を意味する。日本橋編では中央区民部地域振興課がまとめた平成一二年一月現在の「東京都中央区内町会・自治会区域表」に準じた。
- 三、お神輿・山車の写真は平成一年神田祭時に東京電機大学写真部の全面的な協力を得て撮影したものを中心に掲載し、不足分等は適宜補った。
- 四、お神輿・山車の写真は平成一年五月現在各町会が所有しているものを掲載した。
- 五、各頁の町会札は、平成一一年五月現在各町会で使用されている駒札に準じた。
- 六、お神輿の作年・作人は神田編では千代田区教育委員会が昭和五二年一二月に作成した「神輿調査台帳」を基本にし、不足、不明分は実地及び聴き取り調査にて補った。日本橋編では「神輿調査台帳」に相当する資料が無かったため、全件実地及び聴き取り調査によるものである。
- 七、本文中の小舟町八雲神社は黒川治良が、八雲神社以外の摂社末社市場及び町会沿革は後藤禎久が、神田祭今昔(天下祭と天王祭)は山瀬一男がそれぞれを執筆した。八、本書が「神田祭」を愛するすべての人々にゆきわたり、伝統文化継承の一助になることを切に願う。

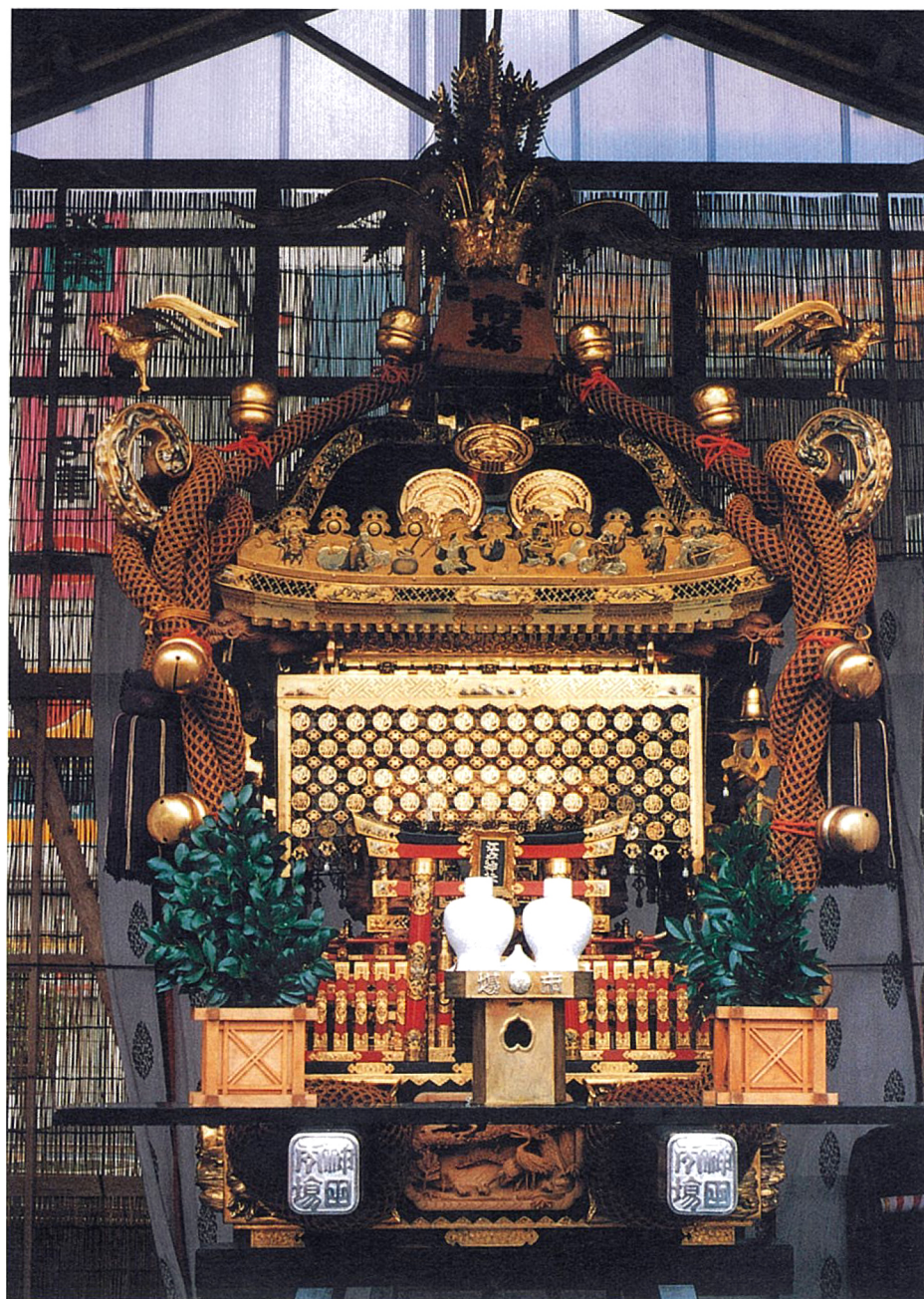
神田市場

『江戸神社』（摂社）

神田明神摂社である牛頭天王（こずてんのう）三社（一の宮・二の宮・三の宮）は、古くは一括して祇園牛頭天王、江戸の天王、江戸大明神とも呼ばれ、その祭礼は天下祭であった神田祭、山王祭と並ぶ大祭であったという。

幕府は、この三つの天王社を江戸の中心を占め財力のある町々に、「持ち」という形で祭礼を受け持たせた。すなわち、一の宮・南伝馬町持ち、二の宮・大伝馬町持ち、三の宮・小伝馬町持ち（後に小舟町持ち）であり、このうち一の宮は、江戸神社とも呼ばれていたが、慶応四年（明治元年・一八六八）新政府による神仏分離の布告によって須賀神社と改称された。一の宮は須賀神社と改称された後も、祭礼をとり行い続けていたが、明治一八年（一八八五）神田神社内にあった社が類焼で焼失し、同年社殿が再建されたのを機会に「持ち」が南伝馬町から神田青物市場に変わり、名称も旧名に戻り江戸神社と改称された。

つまり、現在の江戸神社の歴史をさかのぼれば、牛頭天王祭一の宮に辿り着き、神田（多町）市場とも深いつながりがある。昭和三年、現在に見る江戸神社の大神輿が復興され、祭礼は五月の神田祭と同時に行われるようになった。平成三年、神田市場は大田市場



江戸神社 昭和33年 鹿野喜平作



に移転し、神社も移されたが、神社の旧地神田明神の遙拝所と位置付けられ、明神境内の宮は新装され、江戸神社として現在の姿になったが、現在でも「神田市場の千貫神輿」と呼ばれている大神輿は、江戸神社の神輿である。



錦町三丁目町会 昭和 8 年 宮惣作 虫喰塗屋根



神田錦町二丁目町会 昭和 33 年 宮本重義作



室町一丁目会 山車 加茂能人形 昭和11年 後藤直光作



室町一丁目会 神輿 昭和13年 後藤直光作